

北海道地域農業研究所は、農業の振興にかかる諸問題を地域の視点から独自に研究を進め、農協や行政の地域振興の樹立と実践を積極的に支援するシンクタンクとして設立されました。ここでは、研究所の事業のあらましと組織体制を紹介します。なお、調査・研究に当たっては、研究所の専任スタッフのほか大学、試験研究機関の研究者にも協力して頂く体制をとっています。

地域農研の主な事業

1 地域農業振興並びに協同組合に関する調査・研究

九十年代北海道農業の基本的な問題と研究課題について整理し、史に経営形態別・地帯別の基本的な問題と対策のための調査・研究をおこないます。具体的には、次の三つのテーマに重点を置いて研究に取り組みます。

- (一) 地域農業システムに関する調査研究
- (二) 低コスト生産体系の確立方策

(農業生産システムに関する先進事例の収集と分析)

- ① 農畜産物の生産加工、流通システムの調査研究
(複合部門の高付加価値化、有利販売を可能にする生産・流通システムのあり方)
- ② 農作業受託方式による規模拡大と農地有効利用の事例についての調査研究
- ③ 農村地域環境整備に関する調査
(農業基盤整備を含めた環境整備のあり方についての研究)

II 農業に関する情報の収集と提供

(農協の運営体制に関する調査研究)

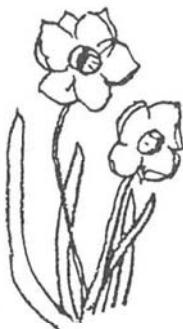
- ① 新時代に対応した農協の各事業のあり方にに関する研究
- ② 農協間の事業提携に関する調査研究
(販売・施設の広域利用の先進事例の分析)
- ③ 北海道における農協合併の必要性と実現条件の研究

III その他関連する事業

- (一) 地域農業に関する調査研究の分析と広域農協の合併効果式の検討)
- (二) 農畜産物の流通・消費に関する場合受託

る調査研究

- ① 農畜産物の生産加工、流通システムの調査研究
(複合部門の高付加価値化、有利販売を可能にする生産・流通システムのあり方)
- ② 食品加工・外食産業の動向と北海道農業への期待構造に関する研究
- ③ 消費者行動の変化と消費者の組織化に関する研究



には、行政、農業団体等からの研究に関する研究の依頼を地域の行政機関や農協から受ける場合、当研究所では調査・研究の成果を実践的なものとするため、依頼者との共同研究という考え方をとっています。平成二年度の実績については、本誌二十四頁に掲載されています。

(二) 研修会等への講師の派遣

地域からの要請により、講師の派遣や斡旋を行います。平成二年度は、設立して間もないこともあり件数は多くありませんが、本誌「掲示板」に派遣した研修会が紹介されています。

(三) 研究会の開催

農村現場での現地研究会や各種シンポジュウムを開催します。

事務職員	職員	監事	理事員
事務局長			理事長
研究部長			副理事長
専任研究員			副理事長(所長)
平尾恵美子	石田孟史	三好 黃吉	常務理事
吉野宣彦	幸健一郎	近藤 正忠	理 事
中村正士	菊池 翠	内山 和之	
左右津孝彦	小林 秀敏	津川 直一	
滿園 敏夫	足羽進三郎	足羽進三郎	
北海道農業会議 農業開発公社理事長	永澤 悟	永澤 悟	
市民生協コープさっぽろ会長			
農林漁業金融公庫北海道支店長			
北海道農業共済組合連合会 厚田村農協組合長			
北海道中央会副会長			
北大農学部長			
北大経済学部教授			
ホクレン審議役			
北大経済学部教授			
ホクレン副会長			
北海道共済連副会長			
北海道厚生連副会長			
北海道農業会議会長			
農業開発公社理事長			
さっぽろ会長			
北海道支店長			
厚田村農協組合長			
北海道農業共済組合連合会 会長			
千葉燎郎			
富田義昭			
七戸長生			
岩野勝			
上田恒夫			
三沢政雄			
千葉燎郎			
北大農学部長			
北大経済学部教授			
ホクレン審議役			
北大経済学部教授			
ホクレン副会長			
北海道共済連副会長			
北海道厚生連副会長			
北海道農業会議会長			
農業開発公社理事長			
さっぽろ会長			
北海道支店長			
厚田村農協組合長			
北海道農業共済組合連合会 会長			

◇発足間もない研究所に、町村、農協から数多くの「地域農業振興計画」に関する委託研究が持ち込まれています。

◇このことは、いま農村現場では、「我が村のビジョン」づくりに強い願望のあることの現われと思われます。

◇ビジョンづくりは人頼みでは決して生きたものとはなりません。主役はあくまで地元であって、研究所は脇役に徹したいと思っております。

◇今回の会報は、創刊号として設立記念講演「これから地域農業と農協」を特集してお届します。

◇先生のお話は、農協にとって多少耳の痛い部分もありましたが、適切な批判は正しく受け止め地域農業の発展に役立てて頂ければ幸いです。

◇会報の編集方針としては、会員をはじめ現場の意見が反映できるものとなるよう努力するつもりです。皆様方の暖かい叱咤激励をお待ちしております。

△編集後記△